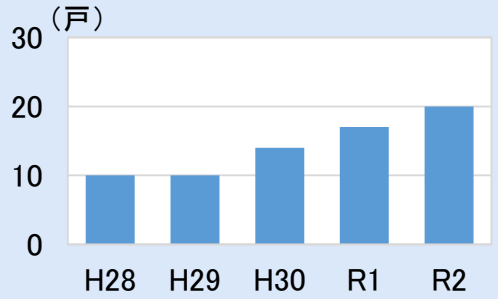
ロボット搾乳における生菌数低減の取組（宗谷農業改良普及センター）

背　景

【宗谷管内の概要】

○1戸あたりの飼養頭数の増加に伴い、牛舎新設時に搾乳ロボットを導入する農場が増加



宗谷管内のロボット搾乳農場数の推移

○人が搾乳している場合と比較し、搾乳ロボットで生産される生乳は生菌数が多い傾向があり、乳質の低下が懸念される状況

【地域の課題】

○搾乳ロボットで搾乳された生乳の生菌数の低減が必要

○生菌数低減のための具体的な手法の確立

普及活動内容

○ロボットの搾乳ユニット周辺の“汚れ”を見える化

ATP拭き取り検査（A3法）実施

各所を10秒間拭き取りし、RLU値*を計測

*高いほど汚れていることを示す

ATP拭き取り検査（A3法）の検出器

○搾乳ユニット周辺の手洗浄方法の改善を提案

〈例〉

・ユニット周辺の手洗浄回数
　２回/日→３回/日

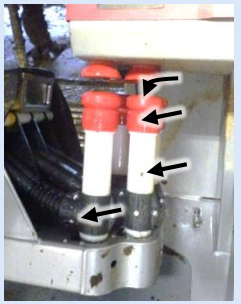
・洗浄方法
　ホースの流水で洗浄→
　　ブラシを使った手洗浄

・洗剤の有無
　なし→中性洗剤使用

普及の成果

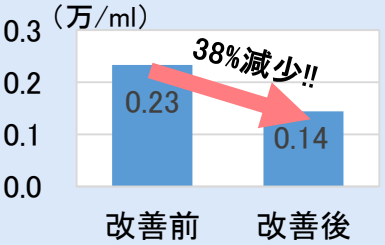
【具体的な成果】

○ロボット搾乳時に乳頭が触れる搾乳ユニット周辺の“汚れ”が減少（RLU値が低下）



ATP拭き取り検査調査箇所（抜粋）

○バルク乳の生菌数の低減



バルク乳生菌数(改善前対比)

【成果のポイント】

○汚れを見える化したことで、手洗浄の重要性が理解された

○他の搾乳ロボット導入農場でも同様の改善でバルク乳の生菌数が減少したことから、汎用性のある取組である

（連絡先：宗谷農業改良普及センター　TEL　01634-6-1414）